

優秀賞

立教大学コミュニティ 福祉学部 原田ゼミ

(4年卒業研究演習)



登別市の観光の集客は、旅行会社任せの営業を行い、団体客重視の傾向が見られます。その結果、観光客の減少とホテルや商店街の赤字経営につながったと問題点を挙げました。その解決策として、地域主体の『温泉大学プロジェクト』を提言しました。

この温泉大学プロジェクトは、『講座』『オーダーメイド旅行』『スペシャルリスト養成』の3本柱で、『講座』は温泉まめ知識や効果的な入浴方法など、温泉に関する検定を行い、その結果により割引券や招待券を配布し、集客を狙うというシステムです。

また、『オーダーメイド旅行』は、観光客の希望に合わせた旅行プランを作成するもので、夫婦水入らずの時間を過ごす『夫婦いきいきプラン』や温泉の効能を生かした『療養プラ

ン』、自分のペットと旅行ができる『愛犬プラン』などが考えられました。

『スペシャルリスト養成』は、温泉大学を運営していくスタッフを養成する『温泉大学プロジェクト運営スタッフコース』と、温泉を活用した地域活性化を企画・運営する『地域貢献型事業起業コース』からなるものです。

これらのプロジェクトを運営するために、『温泉サポーター』を育成する必要があります。

温泉サポーターは、インターネットを通じて全国から募集し、活動に対する報酬は地域通貨で支払うというものです。登別で働くことで長期滞在が可能になり、地域通貨が流通することで、市内経済が潤うというものです。温泉サポーターは、すべての方が温泉を楽しく利用できるようにするための、旅行コーディネーターの内容も盛り込まれています。

講座の修了者を講師に、観光客用の講座を受け持ち、オーダーメイド旅行のプラン作成を行います。スペシャルリストの方は、市と連携した上で空き店舗を買い上げ、そこを拠点に活動することになります。

温泉大学をきっかけに、市民のネットワークが広がり、地域活動の活性化から登別市が発展し、全国に温泉ブランドを発信していくこととなります。

登別市長賞

日本工学院北海道専門学校



地元の日本工学院北海道専門学校は、『心からのおもてなし』『日本ハムファイターズのような取り組み』『人は人の集まるところに行くと』の3つをコンセプトに、『イベント』『建築』『行政』のそれぞれの分野から提言を行いました。

イベントでは、地獄まつりは知っているが、見に行く人が少ないことを問題点として挙げました。例えば、別府の温泉まつりでは、まつりの期間中ホテルなどの温泉が無料で入り放題になり、移動についても20分間隔で、バスが500円のフリーパスで走っています。そのようなことを行うことによって、市民が温泉に親しみを持てるようになると思います。

また、まちの中にストーリー性を持たせることや閻魔堂の動く回数を増やすこと、スポットにガイドを配置して説明した方が自分のペースで

回れることを挙げました。

建築からは、温泉街の入口にモータープールの設置と歩行者天国の実施、電線の地中化により開放感が溢れ、空間が演出しやすくなり、足湯やビアガーデンなどを設けて楽しい空間にしたいと提案がありました。

また、看板や建物に統一性が無いことや地獄から極楽に行くなどのストーリー性をまちに持たせ、イルミネーションの照明の中、市民が火をともしたちょうちんを観光客が持ち歩くことで、市民と観光客が一体感を持たせ、ぜひ歩いてみようという空間づくりが必要だと提案しました。

行政では、外国人観光客が増えているものの、国内からの観光客が減っていることに注目し、まちぐるみでの雰囲気づくりを提言しました。観光客や日帰り客への浴衣の貸し出しなどで、歩行者天国を歩いてもらい情緒感を出すことや地元から愛されることの必要性も訴えました。

旭山動物園では、格安な値段により多くの市民が訪れ、さらに外からも人が集まっています。登別でも宿泊優待券が配られています。泊り利用されていないように感じます。これは市民ニーズに合っていないと思います。市民であれば日帰りの方が利用しやすいのではと考えました。こうすることで人が人と呼び活気のあるまち、活気のある観光ができると提案しました。